



《廃墟の修道院》1912年 油彩／カンヴァス 61×82cm ポンピドゥセンター／国立近代美術館・産業創造センター（モンマルトル美術館寄託）
© Centre Pompidou, MNAM-CCI, Dist. Grand Palais Rmn / image Centre Pompidou, MNAM-CCI / distributed by AMF



《マルカデ通り》1909年 油彩／カンヴァス 60.3×81.3cm 名古屋市美術館

2025.9.20 sat — 12.14 sun

休館日：月曜日（ただし10/13、11/3、11/24は開館）、10/14、11/4、11/25
開館時間：10:00–18:00（金曜日は20:00まで）※最終入場は閉館30分前まで

主催：SOMPO美術館、朝日新聞社、テレビ朝日 特別協賛：SOMPOホールディングス
特別協力：損保ジャパン 協力：日本航空
後援：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ、新宿区 企画協力：IS ART INC.



ユモ
トリ
リス
展

Maurice Utrillo

2025.9.20 sat — 12.14 sun

休館日：月曜日（ただし10/13、11/3、11/24は開館）、10/14、11/4、11/25
開館時間：10:00–18:00（金曜日は20:00まで）※最終入場は閉館30分前まで

主催：SOMPO美術館、朝日新聞社、テレビ朝日 特別協賛：SOMPOホールディングス
特別協力：損保ジャパン 協力：日本航空
後援：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ、新宿区 企画協力：IS ART INC.



ユモ
トリ
リス
展

Maurice Utrillo

フランス国立近代美術館 (ポンピドゥセンター) 所蔵の10点を核に、油彩・版画・資料類など約70点で構成。 ユトリロの様式展開を緩やかな年代順に沿ってたどりつつ、5つのテーマから、その魅力をさらに掘り下げます。

20世紀初頭のパリの街並みを描いたことで知られる風景画家モーリス・ユトリロ (1883-1955) は、生まれ育ったモンマルトルや暮らした郊外の風景を数多くの油彩画に残しました。画家としての歩みには、母シュザンヌ・ヴァラドン (1865-1938) をはじめとする家族との複雑な関係や、幼少期からのアルコール依存といった要素が絡み合い、独自の世界観を築き上げています。波乱に満ちた人生を送りながらも、20世紀前半の美術界を席卷したこのエコール・ド・パリの画家は、とりわけ日本において現在もなお根強い人気を誇っています。

本展は、フランス国立近代美術館 (ポンピドゥセンター) の協力のもと、同館所蔵の《モンマニーの屋根》(1906-07年頃) や《ラパン・アジル》(1910年) を含む作品約70点と、アーカイブを管理するユトリロ協会から提供された資料を通して、その全貌に迫ります。アルコール依存症の治療の一環として絵筆をとった「モンマニー時代」、さまざまな素材を用いて白壁の詩情を描き出した「白の時代」、そして鮮やかな色彩を駆使した「色彩の時代」をたどりながら、ユトリロが確立した唯一無二の様式と、彼が愛した風景の詩情を感じていただける展覧会です。

Maurice Utrillo (1883-1955) is known for depicting the cityscapes of early 20th-century Paris, leaving behind numerous oil paintings of Montmartre where he was born and raised, as well as suburban landscapes where he lived. His artistic journey was shaped by complex relationships with his family, including his mother Suzanne Valadon (1865-1938), and his struggle with alcoholism since childhood, all contributing to his unique artistic vision. Despite his turbulent life, this École de Paris painter who dominated the art world in the first half of the 20th century continues to enjoy enduring popularity, particularly in Japan.

This exhibition, organized in cooperation with Musée national d'art moderne (MNAM), presents a comprehensive view of Utrillo's œuvre through approximately 70 oil paintings, including *Toits à Montmagny* (c. 1906-07) and *Lapin Agile* (1910) from the MNAM collection, along with archival items provided by the Association Maurice Utrillo. Visitors will journey through his “Montmagny Period” when he took up painting as part of his alcoholism treatment, his pinnacle “White Period” where he captured the poetic essence of white walls using various materials, and his “Colorful Period” characterized by vibrant hues. We hope this exhibition offers a chance to appreciate Utrillo's unique style and the poetic landscapes he cherished.

モーリス・ユトリロ (1883-1955)

画家シュザンヌ・ヴァラドンの私生児として生まれ、7歳のときにスペイン出身の画家・批評家ミゲル・ウトリリョ (ユトリロ) に認知されてその姓を名乗るようになります。中学校卒業後はさまざまな職を転々とするなかでアルコール依存症が悪化し、その療養の一環として絵画制作を始めました。ピサロやシスレーの影響を受けて厚塗りの画面を志向したのち、1909年頃からパリの街の白壁を独自のマチエールで表現し、アカデミックな絵画とは一線を画す「白の時代」と呼ばれる作風を確立します。その独創的な表現や半ば抽象化された画面空間により、エコール・ド・パリのなかでも特異な存在として高く評価されています。本年はユトリロの没後70年にあたります。

Chapter. 1 モンマニー時代

- 1 | 幼少期と青年期に思いをはせる
- 2 | ユトリロと日本をめぐる短い歴史



左：《モンマニーの屋根》1906-07年頃 油彩／カンヴァス 65×54cm ポンピドゥセンター／国立近代美術館・産業創造センター © Centre Pompidou, MNAM-CCI, Dist. GrandPalaisRmn / Bertrand Prévost / distributed by AMF 右上：《サン＝ドニ運河》1906-08年 油彩／紙 53.4×74.5cm 石橋財団アーティゾン美術館 右下：《ヴィルタヌーズの城》1908-09年頃 油彩／厚紙 52×75cm ポンピドゥセンター／国立近代美術館・産業創造センター © Centre Pompidou, MNAM-CCI, Dist. GrandPalaisRmn / Philippe Migeat / distributed by AMF



ユトリロは、印象派の画家 (ピサロやシスレー) の影響のもと、住まいのあったモンマニーの風景を描くことから画家として出発しました。小高い場所から屋根の連なる風景と木々を描いた作品は、その後の作品を構成する自由な線と直線・色面からなる絵画の出発点をなしています。

Chapter. 3 色彩の時代

- 5 | 女性の描き方

ユトリロは街並みの写真を参照しながら、定規やコンパスを使って下描きをし、この時代は彩度の高い色彩を選び制作をすすめました。これらの作品群からは、現実の風景を描きながらも、その現実から距離をとり、絵画の空間が抽象化、記号化する様子を見て取ることができます。



《シャラント県アングレム、サン＝ピエール大聖堂》1935年 油彩／カンヴァス 111×130.5cm 公益財団法人ひろしま美術館

Chapter. 2 白の時代



《ラパン・アジル》1910年 油彩／カンヴァス 50×61.5cm ポンピドゥセンター／国立近代美術館・産業創造センター © Centre Pompidou, MNAM-CCI, Dist. GrandPalaisRmn / Bertrand Prévost / distributed by AMF

- 3 | 壁の質感を味わう
- 4 | 《ラパン・アジル》——制作方法を知る

パリの街並みに目を向けた作家が、漆喰でできた壁の質感を巧みに表現した時代です。より構成的な画面を志向し、様々な表情に満ちた白色の表現により、わずかにいびつな構図の街並みのなかにリアルな質感をもたらすことで、画家としての名声を高めました。



《可愛い聖体拝受者、トルシー＝アン＝ヴァロワの教会 (エヌ県)》1912年頃 油彩／カンヴァス 52×69cm 八木ファインアート・コレクション

観覧料 (税込) *年齢は入場時点

一般 (26歳以上) 事前購入券1,700円 当日券1,800円

25歳以下 事前購入券1,100円 当日券1,200円

高校生以下 無料

身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳 (ミライIDも可) を提示のご本人とその介助者1名は無料、被爆者健康手帳を提示の方はご本人のみ無料

※25歳以下の方は生年月日が確認できるものをご提示ください

お得なペアチケット (2枚セット券) 3,200円 枚数限定

○販売期間：7月22日 (火) 10:00から9月19日 (金) 23:59まで

○美術館受付では販売いたしません

※事前購入券は7月22日 (火) 10:00から販売開始、公式電子チケット「アンビュ！」、イープラス、ローソンチケット (Lコード：33492)、チケットぴあ (Pコード：687-258) などでお買い求めいただけます
※各種購入方法の詳細は美術館ホームページをご確認ください

会期中のイベント

内容の詳細は美術館ホームページをご確認ください

■ 学芸員のギャラリートーク【自由参加】

9月26日 (金) 18:30-19:00、10月1日 (水) 11:00-11:30

本展担当学芸員が展覧会の見どころや出品作品について展示室で解説を行います (展示フロアを移動しながらマイクを使用して説明します)

参加方法 | 時間になりましたら5階展示室入口へお集まりください

参加費 | 無料 ※ただし、本展への入場が必要です

■ ギャラリー★で★トーク・アート【要申込】

11月10日 (月) 14:00-16:00

休館日に貸し切りの美術館で、ボランティアガイドと話をしてみませんか? 作品解説を聞くのではなく、参加者が作品を見て、感じて、思うことを話しながら楽しむ参加型の作品鑑賞会です (定員30名)

参加方法 | web申込

9月19日 (金) 10:00より美術館ホームページにて受付開始

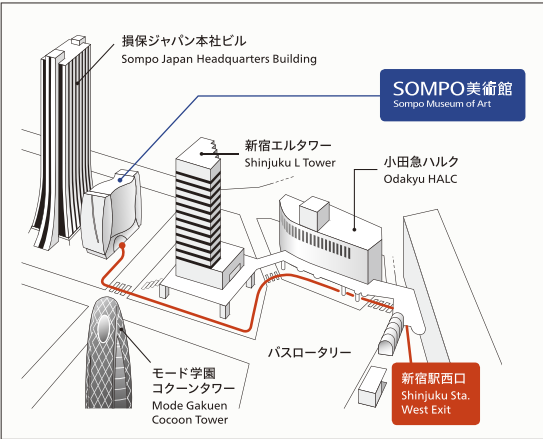
参加費 | 1,800円 (税込)

※高校生以下無料

※ご招待券、ご招待状、年間パスポート、割引等は適用できません

■ 収蔵品コーナー

フィンセント・ファン・ゴッホ《ひまわり》、ほか





SOMPO美術館

Sompo Museum of Art



〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 新宿駅西口より徒歩5分
050-5541-8600 (ハローダイヤル) <https://www.sompo-museum.org/>

今後の状況により、本展の会期や内容の変更、または臨時休館する可能性があります。最新情報は美術館ホームページ等でご確認をお願いします



AMBASSADE DE FRANCE AU JAPON



INSTITUT FRANÇAIS

アンスタイチュ・フランセ

© Hélène Bruneau 2025